

南山大学大学院 入学試験問題集

人間文化研究科
教育ファシリテーション専攻

2025年度

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

《修士課程》

小論文	[一般入学試験]	1
	[社会人入学審査]	4

(問題紙)

問題紙がこの頁を含めて3ページ、解答紙が4ページあるか確認してください。

問題は全部で4問です。すべての問題に解答してください。

解答はすべて、解答紙の指定された欄に記入してください。

問題1

以下の各語について、簡潔に説明しなさい。

- ① 自己調整学習 (self-regulated learning)
- ② 現状維持バイアス
- ③ こども家庭庁
- ④ テキストマイニング
- ⑤ プロセス・コンサルテーション
- ⑥ グループプロセスにおけるノーム

問題2

次項の表は、ベネッセ教育総合研究所が行った「子どもの生活と学びに関する親子調査」のプロジェクトの中から、2015年度調査(wave1)と2021年度調査(wave7)において保護者に尋ねた項目の結果をまとめたものです(松本・木村, 2023より転載)。2015年度の調査では、保護者16,713名(このうち、子どもとの関係では母親が90.8%), 2021年度の調査では、保護者15,696名(同92.0%)から回答が得られています。

以下の問いに答えなさい。

- ① 表1と表2を合わせて、どのようなことが読み取れるか記述しなさい。
- ② あなたが家事・育児の分担に関する現状と課題について論じようとした際に、表1もしくは表2に示したデータにどのような情報が加われば、より根拠を強くもって主張を展開できるでしょうか。追加したい調査項目や、改良した方がよい項目について、その理由とともに記述しなさい。

表1 母親の就労状況(子どもの学校段階別)

	小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化
フルタイム	25.0	33.8	8.7	26.6	33.8	7.2	30.3	35.1	4.8	32.9	38.3	5.4
（正社員・職員）	(17.8)	(25.5)	(7.6)	(16.6)	(24.4)	(7.8)	(18.0)	(23.4)	(5.4)	(18.9)	(23.0)	(4.1)
（非正社員・職員）	(7.2)	(8.3)	(1.1)	(10.0)	(9.4)	(-0.6)	(12.3)	(11.7)	(-0.6)	(14.1)	(15.3)	(1.3)
パートタイム	37.5	38.6	1.1	44.3	44.7	0.4	47.2	48.6	1.4	45.7	44.6	-1.1
無職（専業主婦など）	37.4	27.6	-9.8	29.0	21.5	-7.5	22.5	16.3	-6.2	21.3	17.1	-4.3

*現在の仕事に関する質問のうち、就業形態に関する質問（1.正社員・正職員、2.パート・アルバイト、3.契約社員・嘱託、4.派遣社員、5.自営業（家族従事者を含む）、6.その他、7.無職（専業主婦など））と、就業時間（1.フルタイムの仕事、2.パートタイムの仕事）を掛け合わせ、無回答を除外して集計した。

*（ ）内数値は、フルタイムの内訳。小数点2位以下の四捨五入により、合計が一致しないところがある。

*変化は、2015年度調査と21年度調査の差。

表2 家事・育児の分担(母親が担う割合)(子どもの学校段階別)

		小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
		2015年	2021年	変化									
家事	0～4割	1.9	2.4	0.5	2.0	2.0	0.0	2.2	2.4	0.2	2.0	1.9	-0.1
	5割	4.0	8.2	4.2	3.9	6.7	2.8	4.0	6.1	2.1	3.8	6.3	2.5
	6～7割	9.8	16.2	6.4	9.8	15.1	5.3	10.4	14.3	3.9	9.6	12.6	3.0
	8～9割	31.5	34.8	3.3	31.8	34.5	2.7	32.3	35.8	3.5	29.7	34.2	4.5
	10割	51.7	37.4	-14.3	51.1	39.3	-11.8	49.9	39.0	-10.9	53.3	41.7	-11.6
育児	0～4割	4.6	5.1	0.5	7.0	5.4	-1.6	5.9	5.3	-0.6	5.5	5.3	-0.2
	5割	8.0	12.4	4.4	7.5	10.2	2.7	8.5	9.5	1.0	9.5	10.5	1.0
	6～7割	18.1	21.2	3.1	18.9	20.5	1.6	17.3	19.0	1.7	14.8	16.2	1.4
	8～9割	40.1	36.2	-3.9	38.3	35.4	-2.9	36.0	35.4	-0.6	33.6	34.5	0.9
	10割	27.5	23.7	-3.8	25.8	25.6	-0.2	30.3	28.1	-2.2	34.2	29.9	-4.3

*あなたと配偶者の子育て・家事分担のうち「あなたの分担」をたずね、「自分はほとんどしていない（0割）」「1～2割」「3～4割」「半分くらい（5割）」「6～7割」「8～9割」「自分がほとんどしている（10割）」の7つの選択肢で回答してもらった。回答者が父親の場合は回答を反転させた結果を回答者が母親の結果と合算し集計した。

*「自分はほとんどしていない（0割）」「1～2割」「3～4割」は、まとめて「0～4割」とした。

*変化は、2015年度調査と21年度調査の差。

出典:

松本 留奈・木村 治生 (2023). 保護者の子育て環境, 意識, 行動の変化——2015年度から21年度の経年変化を追求—— 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所(編) パネル調査に見る子どもの成長——学びの変化・コロナ禍の影響—— (pp. 94-111) 勁草書房

問題 3

以下の文章を、「集団意思決定」、「課題葛藤」、「関係葛藤」の3語を用いて日本語で要約しなさい。

Many researchers and practitioners have argued and found that task-related disagreements can stimulate critical thinking, and thus may improve group decision making. In contrast to these findings, two meta-analyses of the intragroup conflict literature found no support for an overall positive association between task conflict (disagreements that follow from different task-related viewpoints) and group performance.

(中略)

[The results of these meta-analyses] suggest that groups are more likely to benefit from task conflict when it occurs in the absence (as opposed to the presence) of relationship conflict.

(中略)

We propose that the presence of relationship conflict during a task conflict has two important consequences. First, it makes group members more likely to rigidly retain an initially preferred decision alternative. Second, it makes group members process information in a biased manner, using their own information during decision making, rather than the information they could (or do) receive from other group members.

出典:

Reprinted from Task conflict, information processing, and decision-making: The damaging effect of relationship conflict, Frank R. C. de Wit, Karen A. Jehn, Daan Scheepers, Copyright 2013, with permission from Elsevier.

問題 4

以下の言葉をキーワードとして、あなたの主張を720~800文字で述べなさい。

「理解」

(問題紙)

問題紙がこの頁を含めて3ページ、解答紙が4ページあるか確認してください。

問題は全部で4問です。すべての問題に解答してください。

解答はすべて、解答紙の指定された欄に記入してください。

問題1

以下の各語について、簡潔に説明しなさい。

- ① 自己調整学習 (self-regulated learning)
- ② 現状維持バイアス
- ③ こども家庭庁
- ④ テキストマイニング
- ⑤ プロセス・コンサルテーション
- ⑥ グループプロセスにおけるノーム

問題2

次項の表は、ベネッセ教育総合研究所が行った「子どもの生活と学びに関する親子調査」のプロジェクトの中から、2015年度調査(wave1)と2021年度調査(wave7)において保護者に尋ねた項目の結果をまとめたものです(松本・木村, 2023より転載)。2015年度の調査では、保護者16,713名(このうち、子どもとの関係では母親が90.8%), 2021年度の調査では、保護者15,696名(同92.0%)から回答が得られています。

以下の問いに答えなさい。

- ① 表1と表2を合わせて、どのようなことが読み取れるか記述しなさい。
- ② あなたが家事・育児の分担に関する現状と課題について論じようとした際に、表1もしくは表2に示したデータにどのような情報が加われば、より根拠を強くもって主張を展開できるでしょうか。追加したい調査項目や、改良した方がよい項目について、その理由とともに記述しなさい。

表1 母親の就労状況(子どもの学校段階別)

	小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化	2015年	2021年	変化
フルタイム	25.0	33.8	8.7	26.6	33.8	7.2	30.3	35.1	4.8	32.9	38.3	5.4
（正社員・職員）	(17.8)	(25.5)	(7.6)	(16.6)	(24.4)	(7.8)	(18.0)	(23.4)	(5.4)	(18.9)	(23.0)	(4.1)
（非正社員・職員）	(7.2)	(8.3)	(1.1)	(10.0)	(9.4)	(-0.6)	(12.3)	(11.7)	(-0.6)	(14.1)	(15.3)	(1.3)
パートタイム	37.5	38.6	1.1	44.3	44.7	0.4	47.2	48.6	1.4	45.7	44.6	-1.1
無職（専業主婦など）	37.4	27.6	-9.8	29.0	21.5	-7.5	22.5	16.3	-6.2	21.3	17.1	-4.3

*現在の仕事に関する質問のうち、就業形態に関する質問（1.正社員・正職員、2.パート・アルバイト、3.契約社員・嘱託、4.派遣社員、5.自営業（家族従事者を含む）、6.その他、7.無職（専業主婦など））と、就業時間（1.フルタイムの仕事、2.パートタイムの仕事）を掛け合わせ、無回答を除外して集計した。

*（ ）内数値は、フルタイムの内訳。小数点2位以下の四捨五入により、合計が一致しないところがある。

*変化は、2015年度調査と21年度調査の差。

表2 家事・育児の分担(母親が担う割合)(子どもの学校段階別)

		小1～3生			小4～6生			中学生			高校生		
		2015年	2021年	変化									
家事	0～4割	1.9	2.4	0.5	2.0	2.0	0.0	2.2	2.4	0.2	2.0	1.9	-0.1
	5割	4.0	8.2	4.2	3.9	6.7	2.8	4.0	6.1	2.1	3.8	6.3	2.5
	6～7割	9.8	16.2	6.4	9.8	15.1	5.3	10.4	14.3	3.9	9.6	12.6	3.0
	8～9割	31.5	34.8	3.3	31.8	34.5	2.7	32.3	35.8	3.5	29.7	34.2	4.5
	10割	51.7	37.4	-14.3	51.1	39.3	-11.8	49.9	39.0	-10.9	53.3	41.7	-11.6
育児	0～4割	4.6	5.1	0.5	7.0	5.4	-1.6	5.9	5.3	-0.6	5.5	5.3	-0.2
	5割	8.0	12.4	4.4	7.5	10.2	2.7	8.5	9.5	1.0	9.5	10.5	1.0
	6～7割	18.1	21.2	3.1	18.9	20.5	1.6	17.3	19.0	1.7	14.8	16.2	1.4
	8～9割	40.1	36.2	-3.9	38.3	35.4	-2.9	36.0	35.4	-0.6	33.6	34.5	0.9
	10割	27.5	23.7	-3.8	25.8	25.6	-0.2	30.3	28.1	-2.2	34.2	29.9	-4.3

*あなたと配偶者の子育て・家事分担のうち「あなたの分担」をたずね、「自分はほとんどしていない（0割）」「1～2割」「3～4割」「半分くらい（5割）」「6～7割」「8～9割」「自分がほとんどしている（10割）」の7つの選択肢で回答してもらった。回答者が父親の場合は回答を反転させた結果を回答者が母親の結果と合算し集計した。

*「自分はほとんどしていない（0割）」「1～2割」「3～4割」は、まとめて「0～4割」とした。

*変化は、2015年度調査と21年度調査の差。

出典：

松本 留奈・木村 治生（2023）. 保護者の子育て環境、意識・行動の変化——2015年度から21年度の経年変化を追う—— 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所（編） パネル調査に見る子どもの成長——学びの変化・コロナ禍の影響——（pp. 94-111） 勁草書房

問題3

以下の文章を、「集団意思決定」、「課題葛藤」、「関係葛藤」の3語を用いて日本語で要約しなさい。

Many researchers and practitioners have argued and found that task-related disagreements can stimulate critical thinking, and thus may improve group decision making. In contrast to these findings, two meta-analyses of the intragroup conflict literature found no support for an overall positive association between task conflict (disagreements that follow from different task-related viewpoints) and group performance.

(中略)

[The results of these meta-analyses] suggest that groups are more likely to benefit from task conflict when it occurs in the absence (as opposed to the presence) of relationship conflict.

(中略)

We propose that the presence of relationship conflict during a task conflict has two important consequences. First, it makes group members more likely to rigidly retain an initially preferred decision alternative. Second, it makes group members process information in a biased manner, using their own information during decision making, rather than the information they could (or do) receive from other group members.

出典:

Reprinted from Task conflict, information processing, and decision-making: The damaging effect of relationship conflict, Frank R. C. de Wit, Karen A. Jehn, Daan Scheepers, Copyright 2013, with permission from Elsevier.

問題4

以下の言葉をキーワードとして、あなたの主張を720~800文字で述べなさい。

「理解」

発行：南山大学入学センター
名古屋市昭和区山里町18番地

Phone : (052)832-3119

F a x : (052)832-3592

E-mail : ml-grad@nanzan-u.ac.jp

URL : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>